

野田阪神駅(地下鉄千日前線)

松下幸之助創業の地・大開を歩く

野田駅・淀川駅(阪神本線) 海老江駅(JR東西線)

「大阪あそ歩マップ集」
その3 No.107

地下鉄野田阪神駅

野田は「吉野の桜、野田の藤、高尾の紅葉」といわれた藤の名所でした。駅前の「ウイステ」は英語の wisteria 「藤」から付けられた名前です。

①松下幸之助創業の地記念碑
(大開公園)

大正7年(1918)、松下幸之助は東成区猪飼野から大開へ引越して、松下電気器具製作所を創立しました。昭和4年(1929)に松下電器製作所に改称、やがて月産10万台のランプ工場に発展させ、昭和8年(1933)には門真に工場を移転しました。昭和7年(1932)の創業記念式典で、水道水のように大量の製品をどこでも安価に供給するのが産業人の使命であるという有名な「水道哲学」を説きました。記念碑は直筆の「道」の文字が刻まれています。



②松下電気器具製作所第二工場跡

大正14年(1925)に第二工場を建設しました。ここで自転車と手提げ兼用の角型ランプを考案しました。このとき「国民の必需品にしよう」という思いから「ナショナルランプ」と命名しました。これが「ナショナル」という商標のはじまりです。

③西野田工科高等学校

明治40年(1907)大阪府立職工学校として、工業高校では大阪市立の都島工業高校と並ぶ歴史をもっています。福島は明治以降、堂島川を利用した工業化が進んで多くの大工場が創業し、関連する中小企業も多く、職工学校が人材を供給する優れた工業立地で、そのような環境の中で松下電気器具製作所が成長してきました。

④松下電気器具製作所・第一次本店・工場跡

創業の家が手狭になったので、大正11年(1922)、当地に100坪余の新工場を建設しました。回転

式アタッチメントプラグ、二灯用クラスター(二股ソケット)などを製造して従業員50名を超す会社に成長しました。幸之助は創業の地に思い入れが深く、終生、本籍を当地から移動させていません。

⑤松下幸之助創業の家

大正7年(1918)、幸之助は北区西野田大開町(現・福島区大開)に2階建ての借家の階下3室を工場に改造して松下電気器具製作所を創設しました。幸之助23歳、妻むめの22歳、義弟・井植歳男15歳(三洋電機創業者)の3人でのスタートでした。



地下鉄野田阪神駅

